

令和5年度 第5回益城町地域公共交通会議

日時：令和6年（2024年）2月19日（月） 10：00～11：30

場所：益城町役場 会議室 2-4、5、6

出席者：21名（欠席1名）

内容：

1. 開会

事務局より、会議成立報告および資料確認。

2. 会長（副町長）挨拶

3. 議事

（議案第1号）木山・広安循環線の廃止について

事務局より、資料 1-1、1-2 に沿って説明

委員)

本路線について、これまで見直し等を行いながら維持・運営に努めてきたが、当社のグループ全体で乗務員が不足しており、採用活動も含め対策に取り組んでいるが、抜本的な改善には至っていない状況である。乗務員不足と利用状況をふまえて検討した結果、本路線については、廃止する判断に至った。

委員)

現在、役場仮設庁舎があった場所に複合施設の建設が進んでいる。その南側にある木山下辻団地にお住まいの方から、バス路線やコミュニティバスの存続について要望をいただいている。複合施設の開館後は、多くの方が集まる場所となるので、公共交通の維持・バス停設置をご検討いただきたい。

事務局)

木山・広安循環線は3月末をもって廃止となるが、議案第2号で新たなコミュニティバスについて提案させていただきたい。その中で、小峯木山コミュニティバス実証運行では設置していなかった「一ノ迫」バス停を設置予定としている。

また、仮設庁舎があったときは、仮設庁舎に木山・広安循環線のバス停を設けていた。複合施設のバス停設置については、令和6年度中に検討したい。

- 協議が議案第 2 号も含めた内容となったため、議案第 2 号に移り、後ほど議案第 1 号と第 2 号をまとめて審議

(議案第 2 号) 令和 6 年 4 月以降の市街地循環バスの運行について

事務局より、資料 2-1、2-2 に沿って説明

委員)

現在、小峯木山コミュニティバスの実証運行業務を受託しているが、利用者から運転手に要望が
っている。一つは、農協（とれたて市場）にバス停を設置してほしいということ。もう一つは、右回り
と左回りを同時に運行できないかということ。また、運行事業者として、運行車両の定員を超える
利用があった場合に備えて、当社で所有しているジャンボタクシーに加え、タクシーでも運行
できるよう準備をしようと思っている。

事務局)

小峯木山コミュニティバスでは、ミナテラスや総合体育館が農協の最寄りのバス停であるが、4
月から運行する木山広安コミュニティバスでは、「横町」や「木山上町（御船）」のバス停を
追加している。右回りと左回りの同時運行については、実証運行で利用状況を確認しつつ、
予算等も含め検討していきたい。また、予備車両としてタクシーでも運行できるよう
車両登録等の調整をしていきたい。

委員)

一般路線バスと木山広安コミュニティバスの連携について伺いたい。益城町の位置関係から、
健軍電停や市民病院など市内へのアクセスにおいて、最も利用が見込まれると思う。
可能であれば、このコミュニティバスも健軍電停や市民病院へ行けるようにする
か、乗り継ぎで安く利用できるなど、利便性向上につながる運用となることを
重点的に考えていただきたい。

事務局)

現在、本町では木山産交と熊本市内方面をつなぐ一般路線バスが運行している。
これまで、木山・広安循環線はこの路線バスに接続する位置づけで運行してきた。
また、空港と市内をつなぐリムジンバス等が益城インター口を運行している。
木山広安コミュニティバスも路線バスやリムジンバスに接続し、乗り継ぎが
できるような運行経路や時刻を計画している。

委員)

木山広安コミュニティバスでは、木山下辻団地付近のバス停として、「一ノ迫」
バス停が設定されている。災害時の避難場所としても位置付けている複合施設
の建設も進んでいるため、このコミュニティバスをより木山下辻団地の近く
まで運行できるよう検討していただきたい。

事務局)

複合施設を来年度末の竣工に向け、建設を進めている。建設期間中のバス停
設置は難しいため、複合施設が完成したあとには、バス停の新設について
検討する必要がある。令和 6 年度中にバス

停設置を検討したい。

委員)

4月からの木山広安コミュニティバスの実証運行期間中は、木山下辻団地を運行路線とすることは難しいか。

事務局)

今回の実証運行においては、周辺のバス停として、「一ノ迫」を設置するところ。利用状況をみながら、引き続き検討したい。

委員)

議案第1号については、乗務員不足ということで仕方がないと思う。

議案第2号の木山広安コミュニティバスについて、3点お伝えしたい。1点目は、現路線の利用状況をふまえて検討してあるが、時間帯によって路線が変わるなど複雑であるため、利用者に分かりやすく伝えられる工夫をしていただきたい。2点目は、県道高森線で路線バスに乗り継ぐ場合、本コミュニティバスを降車したあと、道路を横断する必要がある。同じ方向のバスで乗降できると、道路を横断せずに済み、ベンチがあるバス停ではゆっくりとベンチに座って待つこともできる。3点目は、実証運行の利用状況をふまえて検討することになると思うが、この区域での運行について、コミュニティバスだけでなく、乗合タクシーが適しているか等、他の交通モードも含めて長期的に検討していただきたい。

事務局)

ご指摘いただいたとおり、複雑な路線となるので、チラシ等で分かりやすく伝える工夫をしているところ。乗り継ぎの際の道路横断については、日中の便でいうと、路線バスと同じ方向に運行する区間もある。実証運行のなかで、利用状況を確認したい。今回、定時定路線のコミュニティバスを運行予定としているが、実証運行の利用結果をもとに他の交通モードも含めて検討したい。また、他自治体のAIを活用した実証事業等も参考にしながら、検討していきたいと考えている。

委員)

本会議の説明資料では路線図が記載されているが、チラシ等の周知用資料では、電車やJRなどで見かけるような停留所を順番に記載してつなぐ表示のほうが利用者は分かりやすいのではないかと思う。バス車内の掲示もその表示だと単純で分かりやすいと思う。

事務局)

現在、分かりやすい表示となるよう工夫しながらチラシを作成しているところ。ご提案いただいたように、路線図の下に停留所を順番につなげ、各バス停の時刻を記載した表示でチラシを作成している。

(チラシ案を紹介)

委員)

益城インター口近くの益城台地では開発が進み、住宅も多く建設されている。当社では、ここを通る

路線バスを年々増便しており、利用も多い状況にある。また、小峯地区でも他社の路線バスが運行している。これらの路線バスと乗り継ぎで連携を図れると、さらに町民の利便性向上につながるのではないかと思う。

事務局)

今回の実証運行では、1台の車両で定時定路線運行を予定しているため、各所にバス停を設置することは、速達性の観点からも難しいと考えている。今後、AIを活用した実証事業や他の交通モードを導入する場合は、バス停を増やし、利用者が希望する場所まですぐに行けるよう、乗り継ぎについても考慮しながら検討を進めていきたい。

- 第1号議案および第2号議案について賛成・承認

(議案第3号) 令和6年度地域公共交通確保維持喜全事業費補助金に係る地域公共交通計画の変更について

事務局より、資料3-1、3-2、3-3に沿って説明

- 第3号議案について賛成・承認

(議案第4号) 益城町地域公共交通会議設置要綱の改正および運賃協議分科会設置要綱の制定について

事務局より、資料4-1、4-2に沿って説明

- 第4号議案について賛成・承認

4. その他

事務局より、以下について説明

・「益城町コミュニティ交通の愛称募集」について

5. 閉会

以上